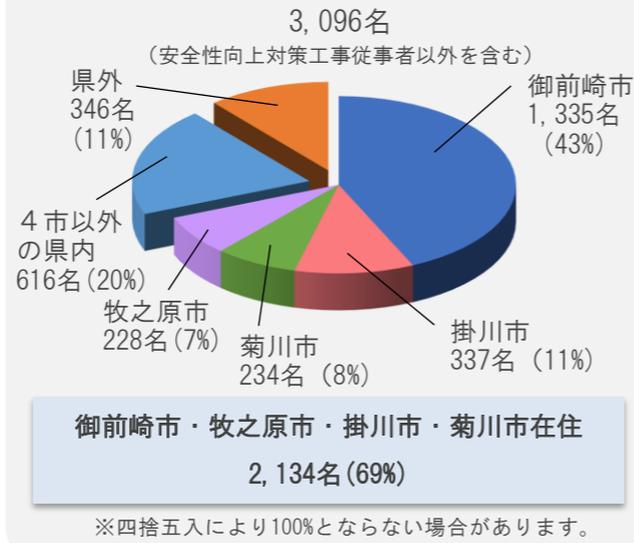


今月号のお知らせ内容

- ① 訓練
- ② 浜岡原子力安全アドバイザーボードの実施について(第5回)
- ③ 現場技術力向上のための川越火力発電所への研修派遣
- ④ 審査会合

浜岡原子力発電所従事者数(12月1日現在)



② 浜岡原子力安全アドバイザーボードの実施について(第5回)

2019年12月3日～6日にかけて、浜岡原子力安全アドバイザーボード(社外の原子力の専門家の委員)の方々に、発電所運営の取り組みについて確認いただき、その結果および提言を社長に報告いただきました。

発電所運営の取り組みとして、技術力向上に対する具体的な活動や、パフォーマンス向上のための取り組み状況等について確認いただきました。また、今回は委員による原子力安全についての講演も実施いただきました。

今後は、委員の方々から社長にいただいた提言について検討・実施していくことで、より一層発電所の安全性向上に取り組んでまいります。



発電機ブラシ交換OJTの確認



委員とのディスカッション



委員による講演会

③ 現場技術力向上のための川越火力発電所への研修派遣

2019年11月24日～25日に、浜岡原子力発電所の保守・修繕業務を担当する若手社員14名を株式会社JERA川越火力発電所へ研修のために派遣しました。

この研修は、発電所運転中の設備の保守・修繕業務経験がない若手社員が発電設備の起動時・運転中の状態を体感し、現場経験や知識を得ることを目的に実施しています。

現場では特別な注意を払う必要がある蒸気タービン・発電機起動時の確認試験等を経験することができました。

今後とも若手社員への教育・研修を実施し、現場技術力の向上に努めてまいります。



蒸気タービン・発電機起動に関する説明



タービン回転状態確認



運転中設備の巡視

① 訓練

全社防災訓練

2019年11月29日、当社は大規模地震災害に備えて、シナリオ非開示型※の全社防災訓練を実施しました。訓練には、浜岡原子力発電所・本店・支店等の各部署から約1万人の社員が参加しました。

浜岡原子力発電所では、南海トラフ巨大地震により震度7の揺れが発生した後、3～5号機が同時に被災することを想定した訓練を行いました。

福島第一のような事故を引き起こさないために、訓練では次の対応が適切・迅速にできることを確認・検証しました。

- 事故収束対応策の立案・実施
- 行政・官庁・マスコミを想定した模擬者への情報発信および問い合わせ事項への回答対応
- これまで実施した様々な訓練において抽出してきた課題事項に対する改善対応

当社は、今後とも訓練を重ね現場対応力の強化に取り組んでまいります。

※ 対応能力の向上を図るために、想定する災害の進展シナリオを訓練者に事前周知せずに訓練を実施する方法です。



緊急時対応に必要な物資等の取りまとめ



対外情報発信対応



中央制御室を模擬したシミュレータでの訓練

④ 審査会合

原子力規制委員会による新規制基準適合性確認審査を受けています。

今後も、原子力規制委員会による審査に真摯に対応し、新規制基準に適合していることを早期にご確認いただけるよう努力してまいります。

＜4号機の進捗状況＞ (2019年12月31日現在)

審査事項	地震・津波等に関する事項	プラントに関する事項
	共通：2回	
審査会合の回数	39回	61回

発電所の安全性を更に高めるための取り組み【概要】

福島第一原子力発電所の事故の教訓から、発電所では地震や津波等の様々な事態に対処するために、設備の追加配備や現場対応力の強化をおこなっています。主な取り組みをみなさまへご紹介いたします。

①福島第一の話

福島第一原子力発電所の事故の場合は、以下のように事象が進展しました。



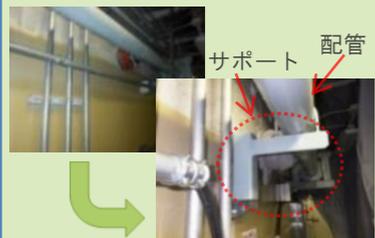
発電所では、福島事故の前から電源や注水、除熱の機能をもつ設備を多重性・多様性をもって配備していますが、事故以降、様々な追加対策を講じ、更に発電所の安全性を向上させています。

②設備の話

従来の設計基準の事故に加えてより厳しい想定の大規模事故に対処するため、様々な事態を想定し、対策を実施しています。また、対策に柔軟性を持たせるために、可搬型の設備も配備しています。

【主な設計基準事故対処設備】原子炉施設の安全を確保するための機器が、一斉に機能喪失しないようにします。

巨大地震に耐える。
原子炉建屋は岩盤に直接設置され、地震に強い構造としています。また、配管サポートの追加をはじめとした重要な設備の耐震補強を実施しています。



津波を浸入させない。
津波が発電所に来襲した場合、海抜22mの防波壁で敷地内への浸水を防ぎます。万が一、敷地内に浸水した場合でも強化扉・水密扉により建屋内の浸水を防ぎます。



自然災害に備える。
発電所敷地外で発生した火災が発電所施設に燃え移らないように防火帯を設置します。



【主な大規模事故等対処設備】

冷やす機能を確保し、重大事故に至らないようにします。また、重大事故等の発生を想定し、事故の進展を防ぐ機能を強化しています。

重大事故に至らせない

恒設

電源機能強化

 ガスタービン発電機
 高台40m地点から電気を供給

注水機能強化

 緊急時淡水貯槽
 高台30m地点から原子炉を冷やす水を供給(7日間分)

除熱機能強化

 緊急時海水取水設備
 既設の海水取水ポンプが故障した場合に備え同様な設備を設置

可搬

交流電源車
 恒設の交流電源設備が故障した場合に備え配備

可搬型注水ポンプ車

 恒設の注水設備が故障した場合に備え配備

可搬型取水ポンプ車

 恒設の注水設備が故障した場合に備え配備

重大事故の発生に備える

フィルタバント設備
 格納容器の破損を防止するため、気体を外部へ放出する際は、放射性物質を吸着するフィルタを通し、セシウムなどの放出量を1000分の1に抑えることで避難の長期化を防止します。

放水砲設備
 原子炉建屋の水素爆発を防止するため、建屋から水素を排出した際に放水砲により放射性物質を地上に落とし放射性物質の拡散を抑えます。

重大事故等に柔軟に対応するため、可搬型車両やその保管場所を確保し分散配置します。対応現場へ出動できるよう、複数のアクセスルートの確保に取り組んでいます。

③現場対応力の話

配備した設備が期待通りの機能を発揮するためには、扱う「人」の「現場対応力」が必要だと考え、強化しています。

【初動対応の強化】

緊急時即応班を設置し、運用開始に向けて増強しています。

24時間 365日体制
 緊急時に特化した幅広い対応力



役割
 ・戦略検討 (現在18名)
 ・アクセスルート確保
 ・可搬設備の操作等
 現場対応

【手順の整備・資格の取得】

設備導入に伴い、必要な手順の追加や免許等の資格の取得をおこなっています。



〈取得免許例〉
 ・大型自動車免許
 ・けん引免許
 ・移動式クレーン免許 など

【訓練の充実】

目的に応じて様々な事故・事象への対応を網羅的に確認・強化し、緊急時に対応する組織の能力を総合的に向上させます。

総合訓練



主に現場や発電所外との連携、対応手順の確認を目的に実施しています。

図上演習



判断能力の向上を目的とした訓練を2015年度から実施しています。

個別訓練

新たに設置した設備の手順を確認するとともに、可搬設備の操作等に必要力量の向上に努めています。(年600回程度)



シミュレータ訓練



電源車操作訓練



可搬型モニタリングポスト設置訓練

今後も、安全最優先で、浜岡原子力発電所の運営に努めてまいります。また、地域の皆さまからいただいた声に丁寧にお応えし、皆さまに信頼いただける発電所を目指してまいります。